

第2回 仙北市角館地域審議会会議録

一、開催年月日 平成18年6月5日(月) 午後2時

一、開催場所 仙北市角館西側庁舎3階 大会議室

一、会議に出席した委員

会 長	佐藤勇太郎
副会長	経徳 紘一
委 員	柏谷圭一郎
〃	茂木千代太郎
〃	相馬 正男
〃	山本 陽一
〃	中村 清悦
〃	藤枝智恵子
〃	堺 研太郎
〃	黒澤 美鈴
〃	三杉真紀子
〃	藤原 達朗

一、会議に欠席した委員

委 員	草薨 稔
〃	千葉 一明
〃	青柳 良信

一、会議に出席した職員

角館地域センター長	柳原 昭市
総務部次長	田口 威徳
企画政策課長	倉橋 典夫
企画政策課参事	藤村 好正
地域振興課長	小木田 隆
総合窓口課長	藤川 実

一、会議次第

1. 開 会

2. 会長あいさつ

3. 諸連絡

4. 議 事

(1) 総合計画アンケート調査結果について

(2) 総合計画に関する提言について

*角館地区の目指すべき方向について

(3) 行政改革に関する提言について

(4) 意見交換

(5) その他

5. 閉 会

一、会議録

- 藤川総合窓口課長の司会により午後2時7分開会。
- 次に佐藤会長より「欠席委員が多く残念であるが、皆さんの積極的ご意見をお願いしたい。」とのあいさつがありました。
- 続いて倉橋企画政策課長、柳原角館地域センター長、田口総務部次長よりそれぞれあいさつがありました。
- 議事進行は会長が行い、次に、藤村企画政策課参事より議事（1）総合計画アンケート調査結果について、集計結果資料に基づき詳しく説明がありました。

（説明の要約）アンケートの回収は5月の連休明けとなり、2千人に送付したところ951人の提出で、約50%の回収率である。アンケートには年代別、男女別、地域別の割合がそれぞれ判り、項目別満足点、不満点や重要項目、暮らしやすさ、行財政運営、市に対する将来イメージやまちづくりの方向性、要望が判る。ただ、それぞれの地域ではどのような考えを持っているかの細分類を行うとすればもう少し時間を必要とする。

- 次に倉橋企画政策課長より議事（2）総合計画に対する提言について、現在基本構想、基本計画の策定を進めており、角館地域のこれからの目指す方向を審議委員の皆さんよりご意見を伺えればと思っているとの説明がありました。
- 次に、議事（1）、（2）に対する質問の時間となり、次のような質問答弁がありました。

○（1）への質問

（質問答弁口述形式）

問：アンケートについて、当局としてはベターであったと考えるのか。（佐藤会長）

答：質問内容については、県内業者に頼み提示していただいたものを企画政策課で修正し、アンケート依頼したものである。集計も業者をお願いした。反省点としては、もう少しシンプルなものにすればよかったと思っている。自

由な意見も書いていただいたが、それについては別途取りまとめていきたい。行政に対しての苦情等が非常に多くあり、今後、行政全般に反映させていきたい。(倉橋企画政策課長)

問：アンケートの分析も外注先業者か。(藤原委員)

答：外注先である。(倉橋企画政策課長)

問：アンケート結果を見せていただいて、なるほどと思うものもあったが、結果として不思議に思えるものもあったが分析できるか。(藤原委員)

答：分析出来るかどうか判らないが、なるべく解析する。(倉橋企画政策課長)

問：「わからない」という答えが多い項目に対しての対策はあるのか。(佐藤会長)

答：今のところ考えていない。(倉橋企画政策課長)

○ (2) への質問

(質問答弁口述形式)

問：アンケート結果を総合計画へどう反映させていくのか。また、回収率が悪いのでは。(堺委員)

答：まちづくりの課題の中で反映させていきたい。事業計画の中でどう活かすかは市役所内で検討していかなければと思う。アンケートの回収率については、委託業者もその程度と予測していた。(倉橋企画政策課長)

問：住民の不満点が重点項目として配慮していけるのか。(堺委員)

答：地域の特徴が見えてくるものがあったので、そういうものを活かしていきたい。皆さんの提言、意見をいただいて行きたい。(倉橋企画政策課長)

意：アンケートをベースにもう一つまとめの作業が進んだところで、地域審議会にかけていただければと思う。(佐藤会長)

意：どのような問題点に対し、どのような対応をし、というところがあれば、はじめて質問できるのだが。(相馬委員)

問：次の段階のステップとしてどうするのか。(佐藤会長)

答：角館地域の将来像について方向性を提言いただければと思ったのですが。(倉橋企画政策課長)

要：アンケート結果の内容に理解できる点は多々ある。住民の不満点、重要項目については、時間のかかる話だが、いずれ必ずやらなければならない話であると思う。(柏谷委員)

要：アンケートの結果、地域により特色があるということがわかったということだが、今回のアンケートの中では農業に関してあまり触れられていない。たとえば、経営所得安定対策等大綱についてだが、各集落に説明に入っているが、なかなか浸透していない。これからの農業の姿やこれから農業を担っていくものに対して指導がどうなされていくのか、遅れている気がする。積極的に行政主導でお願いしたいものだ。(山本委員)

意：このアンケートには農業に関しては具体的に見えるものがない。観光により人が来ればよいと思うが、人が来た次の段階をどうするのか、所得につながることを見つけ、手順をしっかりと踏まえ考えてもらいたいと思う。(佐藤会長)

意：アンケートの結果は参考となった。不満点の高いものは住民が望んでいることだ。また、合併してサービスが低下したことも市職員に対する不満点として現れている。(三杉委員)

意：否定はしないが、これからの時代はある程度、住民サービスも我慢してもらわねばならない時代だと思う。(佐藤会長)

問：農業に関することがアンケートに入っていないことは判ったが、農業で積極的活動をしている藤枝委員さんはどう考えているかご意見をお伺いしたい。(堺委員)

意：(農業は) 施策として観光産業の中にはいっていると思っている。市街地を活性化出来るのは脇役の私たち(農業者)だと思う。地域の材料をもっと活かしたいと思っている。どこかでその力を持ち上げてもらえばと思う。(藤枝委員)

意：商売をしていて、地元産のものでないもの(稲庭うどん、比内地鶏等)が主力商品というのは非常に残念と考えている。(堺委員)

○(休憩 午後3時32分～午後3時42分)

○再開後、藤村企画政策課参事より議事(3)行政改革に関する提言について、行政改革については新市建設計画と職員の管理計画に基づいたもので総務省の指示に基づき作成しなければならない。4月の広報並びにホームページでも出しておるものである。将来においては、(公務員の全体数という中で)一般会計に限らず特別会計にわたっても行うものである。本年の9月を目途に行政改革大綱を作成したいとの説明がありました。

○次に、議事(3)に対する質問の時間となり、次のような質問答弁がありました。

○(3)への質問

(質問答弁口述形式)

意：仙北市全体となるとどう質問してよいか分からない。具体的に角館地域においては、どうしたらというふうに出してほしい。(中村委員)

問：不満としてだが、市の予算がほとんど削減や減少の傾向にあるのに、議員報酬が何故上がったのか。どういう財政的背景があつて上がったのか教えてほしい。実際に市の財源はあるのか。市県民税も上がっていることだし。(三

杉委員)

答：財政計画（3年スパン）の部分については財政課にお願いしているところだ。財政的に厳しい状況に変わらない。次回の審議会に間に合うとすれば資料提示し皆さんと協議したい。（倉橋企画政策課長）

問：正常に市が運営できる財政状況はどの程度であればよいのか参考まで教えていただきたい。（三杉委員）

答：合併の年度（17年度）において基金より9億円取り崩しており、残り3億円弱で18年度への繰越金2億円と合わせて約5億円が調整財源としてあることになるが、非常に厳しい状況である。市県民税が上がったのは、合併に伴うものではない。地方税法が改正になったからである。（藤村企画政策課参事）

問：もう少し明るい材料がほしい。新たな住民サービスが出来るよう知恵を出し合っているのか。（佐藤会長）

答：合併して8ヶ月あまり経ったが、未だ旧町村単位で動いている。旧町村の良さを結びつける手立てが必要だ。観光に関してもバラバラでお互いを活かし、仙北市としての一つのイメージを作れるようにしなければならない。（倉橋企画政策課長）

要：文章でなく具体的に判りやすい全体計画が出てくることを期待している。役割分担をきっちりし、こういう計画はもっと簡素化してよいのでは。（佐藤会長）

問：新市の建設計画では、2010年に観光客数1000万人という目標だが、具体的にどうするのか私たちに見えない。農業の話もでたが、角館町には特産がない。行政も今後どうもっていくのか話を伺いたい。（経徳副会長）

答：角館、田沢湖、西木を具体的にどう結びつけるかということだと思う。（倉橋企画政策課長）

問：行政がまだ一本化されてないという事は先程も伺ったが。（経徳副会長）

答：当面の機構改革（案）について6月8日、議会全員協議会を開催予定で、7月より若干の組織の改革をする予定だ。（倉橋企画政策課長）

○次に全体の流れを踏まえ、各委員より発言を求めた。

（発言口述形式）

意：アンケートの中で強く感じたのが雇用の問題で数字的に大きいと思う。自分の会社でも定年延長の話があり、ありがたいことだが、益々若年者の雇用が困難になるのではと複雑に受け止めた。（黒沢委員）

意：行政にむらがあるように感じる。それぞれ繁忙期の波があると思うので、お手伝い課のようなところがあっても良いのではないか。少ない人数で効率的に出来るのではないか。（堺委員）

要：アンケートの結果を踏まえ、角館地域として重点的に課題を捉え行政として進めてほしい。(山本委員)

要：分庁舎方式ということについても住民の意見が色々あるが、各庁舎に地域センターは置かれているものの、出来ればわかる人を置いてほしい。どこそこに行ってくださいというのではなく、そこで出来るようにしてほしいものだ。(中村委員)

要：アンケートについては、密度の濃いものと思うが、中身を分析されていなければ、噛み砕いていけない。アンケートを噛み砕けば、その中に目指すものがある。集中改革プランどおりやれば、見直しが続いていくと思いました。また、合併の実感は個人的にはないのが現状だ。観光産業は仙北市としてのキーワードだが、私たちの生活と絡めれば何とかなるのではと思う。(藤原委員)

意：藤原委員と同様合併の実感はない。役所に電話してはじめて感じるぐらいだ。アンケート結果は参考となったが、次回に望む事だが、議事(テーマ)をもう少し絞っていただきたいものだ。(三杉委員)

意：アンケート結果は勉強となった。歩むべき道は観光産業であり、それを踏まえ前向きに考えて行きたい。(藤枝委員)

意：経営所得安定対策等大綱がスタートすることになり、農家の立場として集落営農がなくならないよう地域性を活かし、将来について前向きにやらなければいけないと思う。行政に何かやってほしいという時代は終わったと思う。(相馬委員)

意：アンケート集計結果の不満点に対する取り組みが大切だ。ある程度生産的なこと、課題を分類した中で話をしていた方がよいと思う。(茂木委員)

意：大変なことではあるが、合併して良いものもある。話をすれば判る。よくなっていくことを期待したい。(柏谷委員)

意：不満点を住民の声として捉えていただき、重点的に行政に取り組んでもらいたい。(経徳副会長)

意：わからないという回答者が多い項目は、事業に対する啓蒙が足りない。市ではこういう取り組みがあるが、その外にどうであるという風に持っていたほうが良い。もう少しきっちりとテーマを持ってアンケートをとった方が良い。また、半分しかアンケートが回収できないということは、市民意識をもっと高める必要がある。(佐藤会長)

○以上の発言がありました。次回は7月中に開催し、基本構想の原案を示したのでよろしくお願ひしたい。との連絡があり、午後4時47分閉会いたしました。